

## 1. 第38回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会

平成28年9月26日(月)・27日(火)の二日間、香川大学にて、第38回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会が「地域と協奏する大学～地方国立大学法人の地域貢献～」のテーマのもと開催されました。

初日は、はじめに本学の徳田雅明副学長が「香川発 希少糖で描く健康未来社会」の演題にて記念講演を行い、続いて「教育・学習を軸とした『大学と地域連携』」と題して、3人のパネリストをお招きしてフォーラムを開催しました(パネリストは以下の通り。本学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構の白木渡副機構長・特任教授、前香川県環境森林部環境管理課水環境・里海グループ課長補佐・グループリーダーの大倉恵美氏、本学瀬戸内地域活性化プロジェクトの長尾敦史地域連携コーディネーター)。その後、研究協議会の総会を経て、夜には懇親会を行いました。

二日目は「研究協議会の在り方を考える」「域学連携の在り方を考える」「共同研究への参画につなぐ」「政策動向を読み解く」の4つの分科会に分かれて協議を行いました。

毎年持ち回りで開催している当会ですが、北は北海道大学から南は鹿児島大学まで(琉球大学は今年度不参加)60名ほどの関係者が参加し、各大学の現状について情報交換をするとともに、今後のあり方について活発な意見交換が行われました。



(左) 9月26日  
フォーラム

(右) 9月27日  
分科会

## 2. 実施報告:公開セミナー「イギリスの社会と教育」

平成28年11月25日(金)に「イギリスの社会と教育～イギリスの教育改革を目の当たりにして～」(第二部 18:00-19:30)を開催しました。講師として、通訳・翻訳家としてご活躍の祖父江カスティさんをお招きしました。せっかく遠くよりお越し下さるので、教育学部の山下直子教授のご協力もいただき、「異文化から見た日本語～イギリス人と日本語教師の日本語感覚～」(第一部13:30-15:00)もご担当いただきました。今回は私も講師を務めた第二部について、印象深い内容に絞って報告します。

### <イギリスの義務教育>

イギリスの義務教育は長い間、5歳から16歳まででしたが、近年段階的に18歳まで引き上げられました。みんなが大学や専門学校に進学するのであれば大きな変更ではありませんが、実際には学校をドロップアウトした若者、しかも仕事にも就かない(就けない)若者への対応も発生します。義務教育であれば、法的・制度的には無償で一定の学修を保障しなければなりません。

そこで、そもそも職業教育部門を担当してきた継続教育カレッジが政府から補助金を得て、就職につながる講座(美容師や調理師、技師など)を提供しています。職業訓練も教育に位置づけられますし、車の整備工場に見習いとして働くことも、義務教育として見なされるそうです。その背景には生活保護や失業手当の制度が関係しているといえます。法律の改正によって、義務教育中は教育あるいは職業訓練を受けることを原則とするため、この期間には生活保護の申請ができなくなり、財政問題を表面上は乗り切っているようです。

### <イギリスの教育に押し寄せる波>

イギリス教育界に押し寄せる波もあるといえます。大学の授業料をとってみると、4年前に一気に年間9千ポンド(現在のレートで約130万円、前年比3倍)に跳ね上がり、大学生への負担が増大したようです。家庭の経済格差が大学進学へ大きく影響することが考えられ、大学には国内外の富裕層の子弟しか入れなくなる

のではないかと心配が広がっているそうです。

これと連動するように、大学や学校の経営に民間企業が参入するケースが見られるようになってきました。これまで大学が安定的な価格で運営してきた学生寮を、民間の管理会社に売却し、大学のコスト削減を行っているといえます。学費と生活費の両面から大学生やその保護者は経済的負担の増大という打撃を受けているようです。

かつて、イギリスでは大学入学とともに子どもの自立した生活が始まる伝統があったそうですが、大きく崩れるのではないかと保護者の間では囁かれています。10年後には自宅から通える大学を選択する学生が増えているのでしょうか。

#### <祖父江カースティさんのプロフィール>

カースティさんは、幼少時代を大手日本企業が進出していた町で過ごし、「日本」が比較的身近にあったようです。ケンブリッジ大学東洋学部日本語学科で学んだ後に来日して、中部地方の大手企業に通訳として勤め始めました。名前の通り、パートナーは日本人であり、長男、長女との4人家族です。日本人も観光でよく訪れる湖水地方で普段は暮らしていますが、来年度から名古屋大学大学院で日本語を学ぶそうです。(文責:清國祐二)



【聖マイケル小学校を訪れた時の風景】

### 3. 平成29年度公開講座の募集開始について

来年度の公開講座の募集を始めています。(ただし、開講できるのは原則香川大学の教員に限ります。)

開講ご希望の方は、「平成29年度公開講座実施要領」をご一読の上、**平成28年12月26日(月)まで**、「計画書」一部をセンター事務室までご提出下さい。

多くの方の意欲的な講座の提案をお待ちしております。

📍 申込先: センター事務室 内線1273 syogse@ao.kagawa-u.ac.jp  
📍 問合せ先: センター長 清國祐二 内線1272 kiyokuni@cc.kagawa-u.ac.jp

### 4. 『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告第22号』投稿募集

当センターでは毎年度『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』を発行しております。生涯学習を研究する本学教員、センターが主催する講座等を担当した本学教員、また、センターが主催する講座等を担当した学外講師で編集委員会が認めた者であれば、どなたでも投稿することができます。

投稿ご希望の方は、所属、氏名、論文仮タイトルを**平成28年12月26日(月)まで**にセンター事務室または下記担当教員までご連絡下さい。原稿締切は**平成29年2月10日(金)**です。

投稿規定等の詳細につきましては、下記問い合わせ先まで、ご連絡下さい。

多くの方のご投稿をお待ちしております。

📍 申込先: センター事務室 内線1273 syogse@ao.kagawa-u.ac.jp  
📍 問合せ先: センター担当教員 山本珠美 内線1271 yamamoto@cc.kagawa-u.ac.jp

#### <参考:第21号掲載論文>

香川県および愛媛県における日本語指導が必要な児童生徒への支援について

轟木靖子・高橋志野・山下直子(教育学部ほか)

村山籌子の評伝の試みをめぐってー聞き書きのこと(続)の3ー

山崎 怜(名誉教授)

社会教育主事講習のあり方に関する実証研究

清國祐二(センター)

文部省資料から見る大学公開講座の発展ー1945年から1990年までー(中)

山本珠美(センター)

#### センター雑感

冒頭ご紹介した全国国立大学生涯学習系センター研究協議会が香川大学にて開催されたのは平成3年の第13回以来のこと、実に25年ぶりです。平成に入って各地で同センターの設立が相次いだためですが、当時私はまだ大学生でした。(山本)

バックナンバーは下記のWebサイトに掲載されています。是非ご覧下さい。

Tel. 087-832-1273 Fax. 087-832-1275 URL. <http://www.kagawa-u.ac.jp/lifelong/> Email. syogse@ao.kagawa-u.ac.jp